



中の  
川よ  
荒だ

青い雲



教育目標

「めあてをもち 自分で考え ねばり強くやり抜こう」  
目指す学校像…「笑顔と心のある学校」

村上市立荒川中学校  
令和2年度第1号  
令和2年4月9日発行

## ピンチをチャンスと考える

例年よりも早く桜の花が咲き、美しい色を付けています。昨年度末から続く、コロナウイルス感染症の広がりが一向に衰えを見せません。そのような中で、新年度がスタートしました。臨時休校があり、終業式・離任式だけの登校で春休みに入りました。久しぶりに元気な生徒の姿を目にして少し安心できました。「元気でよかったね」と会う生徒に声をかけました。

新しい職員を迎え始業式が行われ、翌七日には入学式もできました。地域の方々はじめ、ご来賓の方はお迎えできまじせんでしたが、皆様の祝福する和やかなお顔が見えるようでした。

始業式、入学式では「自分の命も他の命」も大切にしたいことを強く訴えました。感染症対策で日本を含め、世界中で必死になっている今の状況から当然のことです。また、将来がある生徒たちのためにも大切にしなければならぬと確認しました。また、健康や安全に気をつけて生活するの大切さも加えました。次に、勉強することは中学生の最も大事な仕事であり、自分でできる努力をすることが、社会に出てしっかりと働くことにつながると伝えました。そして、自分の成長のために悩みや心配事は、先生方や大人の人達に相

## 校長 渡辺 安治

談するとよいことも知っておいてほしいと伝えました。いつも生徒に呼びかけていますが、中学生時代は、誰でも心配事や悩みはあります。その悩みや不安を少しでも解消することが、楽しく前向きな生活につながります。

年度が改まっても、コロナウイルス感染症の猛威が止まりません。ウイルスが目に見えないので恐怖さえ感じます。不安なときには、どうすればいいのでしょうか。最近読む新聞記事の中に、次のようなことが掲載されていました。「平穩無事な毎日、うまくいっていることの積み重ねとしてある。これは当たり前でなく、むしろ偶然とも取られる。今の大変な状況は、『うまくいくことの偶然性』を教えてくれる。苦しきから目を背けることなく、できることをしながら好転するのを待つしかない。」今のピンチに耐え、好転の時期を待つことが、今後のチャンスにつながるというのではないのでしょうか。

学校が再開し、文科省・県市教育委員会からの指導により、荒川中学校として、感染防止のために授業や部活動など工夫して行っていきます。通常の教育活動とは違う形式となることもあります。地域や保護者の皆様からのご理解とご協力をお願いします。